

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい		
所在地	静岡県静岡市葵区北1892-8		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi/p/Ji-gvosyoLi-st-Pub.d>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号
訪問調査日	平成22年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」と、グループホームみずあおいとしての理念「居心地のよい、ぬくもりあふれる光の中で、楽しい時間をいつまでも」を実践すべく、お客様中心の介護となるように努めております。
また、太陽の光がたくさん入る広いリビングは、居心地のよい空間となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡市葵区でも、郊外とは言え市街地には遠くない麻機地区に所在する「グループホームみずあおい」ですが、山間部に在り、付近は、清閑な里山の風景を漂わせています。医療系法人が運営する施設は開設後4年を経過し通所介護の事業を併設しています。開設当時の職員も何名か従事して利用者の目線で利用者の思いを大切にしている介護、支援は、所長以下職員全員が明るい雰囲気の中で楽しく仕事に従事している事で、利用者の生活内容の向上にも、より良い変化をもたらしています。各ユニット共に広い共用空間に恵まれ、思い思いの生活をする中であって、毎日、幾通りかのレクリエーションメニューも用意され、明日への希望にもなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
○	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念・グループホーム独自の理念を掲げ、周知と実践に努めている。	運営法人の理念のもと、当該事業所職員の度重なる合議から生まれた独自理念「いごちよい、ぬくもりのあふれる光の中で、あなたと出会い、楽しい時間をいつまでも」を掲げ職員全員が実践している姿が各所で見る事が出来ます。	
○	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア活動をして頂いたり、地域に向けた祭りなどで交流を図り、日常的な繋がりが出来るように地域と調整している段階。	地域の理解と交流を期待する中で、古くから居住する地権者が永年かけて築いた町内会への加入は難しいようですが、賛助会員として加入させていただきよう調整の段階のようです。現状、広報や回覧物ですら廻ってこないようです。	
○	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問合せ頂いた場合には事業所にて相談を行っているが、積極的に地域に向けての活動は出来ていない。		
○	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を実施しており、地域包括・地域住民・ご家族へ活動報告や話し合いを行っている。	運営推進会議は定期的開催されています。地域住民代表としては民生委員が定期的に出席されています。お家族の方々の出席が1～2名の少数であるのが残念です。	地域密着型サービスの位置づけからしても、防災の問題をも含めて地域の方々からの理解や交流は重要と考えます。町内会の代表や付近の住民有志の参加をも期待いたします。
○	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出等がある場合は積極的に担当部署へ出向き連携を深める取り組みをしている。	書類の授受や電話連絡等、円滑な関係は維持されています。	
○	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは職員に周知されており実践できているが、研修には参加できず、より理解した状態での実践に向けていきたい。	重要事項説明書に於いても身体拘束の禁止を掲げ適切な運営が為されています。職員の更なる理解を深める為に、今後は運営母体である法人が実施するテーマ別全体研修へも、積極的に参加をして行く事を聞いています。	
○	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底も実践出来ているが、研修には参加できず、より理解した上での実践に向けていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解し制度を活用されているお客様もいるが、職員にはまだ周知をされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、ご理解頂ける説明となるように努めている。		
10	○	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には近況報告を話した中で意見や苦情等を聴取するようにしており家族会(年1回程度開催)においても意見等を運営に反映させるようにしている。	月1回実施している家族への近況報告には写真を添付したりする事で、家族から感謝の声も寄せられています。また、家族が施設へ訪問された時には積極的に意見を吸収するよう努めていますので、特に問題は認められ	
11	○	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、部署会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	グループホーム、通所介護の事業所合同の全体会議や各部門の会議において職員各自が積極的に意見、提案をする事が出来る職場です。職員からは働き易い等の声も聞かれ、その良さが事業所の質の高さに連動して	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような職場環境・条件の整備に努めているが、職員の実感が薄いのが現状である。		
13	○	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修計画は確立されているが、実際の参加が出来ておらず、事業計画にも取り入れ積極的な参加を行うように進めていきたい。		
14	○	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修を通じて、他事業所との交流を行っている。圏域のグループホーム会議にも参加していきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前になるべく見学をして頂き、ご入居頂く前にご本人の要望等を出来るだけ聞き出せるようにしている。また、職員も安心して過ごして頂けるように対応している。		
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前になるべく見学をして頂き、ご入居頂く前に、ご家族の相談・要望等を出来るだけ聞き出せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前になるべく見学して頂き、ご本人の環境・状況を聞きアドバイス等を行っている。		
18	○	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存能力において、食事・洗濯等を共に行う事を心がけており、日々の会話などでコミュニケーションをとり関係性を築くよう努力している。		
19	○	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問された際は、現状の報告や出来事を伝え、コミュニケーションをとる事により関係性を築くよう努力している。		
20	(8) ○	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時など、馴染みの場所などにお連れする事もあるが、関係性が途切れないような支援までは至っていない。	利用者が昔の思いを語りながら、その場所へ行きたいと話してくれば支援できるようですが、現状、個人差も有り、意思も掴みにくい状況にあるようです。しかし、施設内に掲示された写真等を見れば、事業所なりの支援が理解できます。	
21	○	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際にはなるべく全員で食卓を囲んだり、利用者同士の相性などを考慮し、孤立しないような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時に居宅介護支援事業所などへの情報の提供は行っているが、相談・支援するまでには至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9) ○	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情から利用者の意思や思いの把握に努めている。	ケアプラン作成のアセスメントの段階のみならず、日々の会話の中からの気付きも大切に記録して置き、計画に反映させ、支援出来るよう努めていました。	
24	○	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時のインテークやセンター方式のシート等でご利用者の情報把握に努めている。		
25	○	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタルチェック表を用い、現状の把握に努めている。		
26	(10) ○	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時にはご家族と計画作成担当者が話し合い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	センター方式を活用しての情報収集により、家族をまじえての介護計画を作成し、支援現場との協議により良い支援に努めていました。	
27	○	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日々の様子や気付いた事などを出来るだけ細やかに記入するように努めている。		
28	○	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスでのレクリエーションに参加したり、ご家族の希望があれば宿泊・食事の提供も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の行事や、小中学校の介護体験などを行い、子供と触れ合う機会を支援している。		
30	(11) ○	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が付き添い入居前のかかりつけ医へ受診を行っている。体調に変化があった場合は看護職員や付き添いの家族へ相談し、必要な医療が受けられるように支援している。	入居後も、今までのかかりつけ医に診ていただく事を原則としています。通院の際、家族が訪問していただける事で本人、家族、職員との絆が保たれる事も考慮に入れての事です。勿論、体調に変化をきたした時の支援は万全です。	家族の高齢化に伴う施設への依存度は、増す傾向も考えられますので、施設としての更なる受診支援の体制が出来る事を期待します。
31	○	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録や、看護職に相談する事により個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32	○	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族との連絡となり、医療機関との関係づくりは出来ていない。職員が見舞時に状況を把握している。		
33	(12) ○	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チームでの支援に取り組めていない。ただし、ご家族とは必要に応じて話し合いを行い説明をしている。	看取りは、施設として未経験との事です。重度化に向かわれた方でも、入居者が年齢なりに自然に老衰なされた方が居なかった事に起因するようです。法人としては利用者を選ばない事を方針としているので、今後の問題は、家族の方との話し合いで決める方向にあります。	運営法人は医療系の法人でもあり、認知症は病気でもありますので、重度化や終末期の事に関しては、暖かな目線で、良い方向に進む事を願います。
34	○	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命講習を受けているが、実践力を身につけているとまでは言えない。		
35	(13) ○	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルや訓練を行いながら周知に努めているが、地域との協力体制は築けていない。	災害時の訓練等は定期的実施し、周知徹底を図っています。備蓄については水は自水槽使用の関係で常時確保されていますが、食料品、日用品に関しては準備の遅れを法人からも指摘されている現状でした。	早急に、地域との協力体制の確立を願うとともに、災害時の備蓄についても標準的な水準まで、速やかに、引き上げる事を期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 ○	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損なわない言葉かけや対応について繰り返し確認し、職員に徹底を図っている。	人としての尊厳を守り、その人らしく生活していた中で、プライバシーについて考える事は施設に関わっているものの基本的な事項である事を職員全員が確認しあつての職務に従事している事が、勤務態度で確認されました。	
37 ○		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、食事内容や入浴時間・方法などを聞き取るよう努めている。		
38 ○		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように心がけ、日々の生活の中で食事や体操、掃除や散歩、レクリエーション、職員が見守る中での飲酒や喫煙を楽しむなど、一人ひとりの希望に合わせた生活支援に取り組む努力をしている。		
39 ○		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重した身だしなみができるように支援している。		
40 ○	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と相談しながら決めたり、食事の支度や片付け等も一緒に準備できるよう心がけている。誕生日にはご希望により回転寿司などで外食を楽しんで頂けるような支援も行っている。	自分が出来る範囲内で食事の場でも進んで手伝う入居者が見受けられます。時間が来るとオープンキッチンの前で配膳の準備をする入居者、テーブルへ各自のランチョマットを並べたりする入居者等、食卓のムードを演出しています。	
41 ○		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下状況に応じて、刻み食・ミキサー食などに対応しており、利用者の好みに合わせた飲み物やゼリーを用意する事により水分確保の支援に努めている。		
42 ○		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後・夕食後の口腔ケアを行っているが、昼食後が行えていない為、毎食後に行うよう改善していく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、一人ひとりの排泄パターンを読み取る事により、トイレでの排泄が出来るように支援を行っている。	各自のプライバシーに考慮しながらの適切な支援に取り組んでいます。	
44	○	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや、水分摂取量を多くする事により、予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者に無理の無い状況での決まり事はあるが、その中でのなるべくご希望に添えるように努めている。	毎日、希望の時間帯に入浴していただく事を基本として支援していますが、入居者の個人的な希望をも配慮しての支援に努めています。入浴を好まない入居者についても、週2回の入浴に配慮が為されていました。」	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や、ご本人の体調を考慮した支援を行っている。眠れない方には、なるべく職員が付き添い安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員分の服薬ファイルを作成し、確認ができる環境をつくり服薬の支援を行っている。		
48	○	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイサービスでのレクリエーション参加や希望された先への外出企画、料理や洗濯のお手伝いなど、役割や楽しみ事の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や散歩、季節ごとの花見や紅葉などのドライブ等、利用者の体調等を考慮しながら外出できるように支援している。	年1回の遠出の時には入居者の半数の参加が確認でき、少人数でのレクリエーションを兼ねての外出支援は、土日を利用してかなりの回数が実施されています。入口やホール壁面の写真集などは、その楽しさが確認でき、家族からの感謝の声も聞かれます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物には一緒に外出しているが、金銭管理はすべて職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのご希望により対応できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにフォトコーナーを設けたり、利用者と一緒に作成した季節に合わせた掲示物を配置する事により、居心地のよい空間が生まれるように工夫している。	リビングとしての明るくて広いホールは、この季節、全然、寒さを感じさせず、穏やかで落ち着きある空間です。中心部のオープンキッチンを始め、何処からでもホール内の入居者の動きは把握でき、安全な支援が約束されています。諸展示物もホール内雰囲気盛り上げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの机や椅子、ソファの配置などを工夫して、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのある家具等をご家族の協力で持ち込んで頂き、本人が自分の居場所だと感じて頂けるよう工夫をしている。	入居する際には、馴染みのものを持ち込んでいただけるような支援をしているので、各居室とも、思い思いのレイアウトを試み、落ち着いた生活の場となっています。	
55	○	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や居室・トイレの表札など、安全でわかりやすい環境整備と、できる事になるべくご自身で行って頂けるように声掛けなどに努めている。		